

令和 7 年度 第 1 回 新庄市総合教育会議会議録

開 催 月 日	令和 7 年 9 月 29 日（月）
開 催 場 所	新庄市役所 301・302 会議室
出 席 者	市長、津田浩教育長、栗田正人委員、阿部浩悦委員、斉藤浩昭委員、奥山京子委員
欠 席 者	なし
事 務 局	伊藤リカ教育次長兼教育総務課長、大町淳学校教育課長、岸聡社会教育課長、齋藤課長補佐、三原学校教育主査、伊藤課長補佐、千川原主事
議 事 の 大 要	

午後 3 時 24 分より、市長のあいさつで、総合教育会議を開会する。

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 協議

八向地区 3 校の今後について

（市長）今回の新庄市総合教育会議の議題は「八向地区 3 校の今後について」ということで、説明の途中で区切りをつけて皆さまからご質問やご意見を伺いたと思います。それでは、八向地区 3 校の今後について説明をお願いします。

（教育次長兼教育総務課長）「八向地区 3 校の今後について」資料に基づきながら説明させていただきます。はじめに、現状についてご説明します。

資料に沿って説明

（市長）ただいま、現状について説明をさせました。ここまでの説明について皆さまからご質問はございませんでしょうか。

（委員）質問なし

（市長）それでは次の説明をお願いします。

（教育次長兼教育総務課長）これまでの経過についてご説明します。

資料に沿って説明

(市長) ただいまの説明について、皆さまからご質問はございませんでしょうか。

(委員) 質問なし

(市長) 9月の懇談会での説明で、現状はご理解いただけたものということでございますが、何としても学校を残してほしいという地域の考えはあまりなかったということでしょうか。

(教育次長兼教育総務課長) 9月の懇談会に参加した方を見ますと、2月の懇談会にいらっしゃったような、学校に通っている子どもの保護者世代以外の方があまりお見えにならなかったという印象がありました。地区の区長さんが3人いらっしゃいましたが、保護者だろうというような方が多く、それ以外の世代の方は今回参加いただいてなかったというところで、反対意見が出されなかったという状況になっております。ただ、学校を通して、地区での反対意見もあるというお話を聞いております。

(市長) 市長まちトークというもので升形公民館にお邪魔して、升形地区の方とお話しをして、年代の高い層の人たちからは、早く統合したほうが良いのではないかという意見をいただいたところでした。本合海地区ではまちトークはまだ実施しておりませんが、区長と市長のまちづくり会議ではその話は特に出ていなく、何としても学校を残してほしいというような印象はあまり強くないかなと思います。今後色々な形で皆さんの思いをお聞きするわけではありますが、そんな現状かなと私も思っています。

(市長) それでは、次の説明をお願いします。

(教育次長兼教育総務課長) 今後の方向性についてご説明します。

資料に沿って説明

(市長) ただいまの方向性についての説明について、ご意見・ご質問はございませんでしょうか。

(栗田委員) 私の感想も含めてお話しをしたいと思います。17年ほど前に八向中学校で2年間校長をしておりまして、そのときには50名前後の生徒がいました。当時、これからの八向地区の生徒数の推移に関するグラフを作りましたが、そのグラフからは想像できないぐらい急激な減少となっており、地区の人たちもあまりに早い減少となることに、資料を見たときに驚いたのではないかと思います。資料を見て、致し方ないという思いを持った地区の方が多くいらっしゃったのだろーと思えます。それで、大きな反対意見がしぼんでしまったのかなと感じました。個人的には今の子どもの減少の早さを見ると、八向3校の統合は致し方ないとも思います。ただ、3つの学校がこの地区からなくなったときの地区の状況はどうなのかなと考えます。これまで、学校があるがために地域の人たちが集まる機会があったりしたものと思いますが、そういう場がなくなってしまうというのは非常に地域の衰退にも関わってくるのではないかと思います。かつての萩野学区や明倫学区の統廃合では、統合の前後で通う中学校は変わらなかったため、地域へのダメージは少ないものと考え

えられますが、今回は相当大的なダメージになるのかなと思っています。先般、蔵王第三小学校が山形市で特認校として残るといような話が新聞記事に載っていました。山形市のどの地区からも蔵王第三小学校に通えるという、そういう任務を持った学校になるということでした。八向地区の学校でそれができないかなということも考えたのですが、3校同時に特認校となることはあり得ないし、また、八向中学校がなくなり、2つの小学校のうちの1つが特認校となることもないだろうと思います。そこで、これは私の学校を存続させるという部分で考えた場合の1つの試案ですが、学びの多様化学校という形で校舎の一部を利用できないかなと思いました。学びの多様化学校には学校全体を使用するという形もありますが、教室だけを残すという形もあるかと思います。そうしたときに、柔軟な教育課程を組んで、本来の学校に行けない子ども達が学習できる場になるのかなと思います。もし新庄市だけで難しいとすれば、組合立の学校として、他の町村を巻き込んでいくこともあり得るのかなと思います。今回の閉校・統合についての話は進めてもらって、その後何年かの計画の中であり得るのかなと思ったところです。

(市長) ありがとうございます。それでは、皆様方からも一言ずつご意見をいただければと思います。

(阿部委員) 栗田先生のお話しも、伊藤次長からの説明も前々から伺っていた話なので、十分理解をしておりますが、やはり地元の方々の考えを尊重すべきだということが第一で、こんなにも早くまとまるとは思っていませんでした。新庄学区の中で、私はたまたま新庄中学校の同窓会長をさせていただいておまして、子ども達が来た場合のことをこれから考えていかなければならないと、受け入れる立場の人間として考えております。ただ、地域の文化に関する集まりをなくすような形はあってはならないのかなと思うので、学校を統合した後の施設をどうするかというのは、非常に難しい問題なのかなと思います。学区とお祭りの関係性についてお話しすると、八向地区には3つの囃子があり、囃子の練習は地域の文化の中心となる学校や公民館で行っているかと思います。また、PTA活動を長年してきましたが、八向地区の方は「八向の子どもは9年で育てる」と言っているイメージがすごくあって、子ども達を大事に育ててきているという地域性がある中で、八向の名前を捨てて、新庄学区や日新学区に統合となった場合の住民感情はいかばかりかと思います。今、娘が小学校のミニバスケットを教えているのですが、八向地区の子ども達も一緒に活動をしているようです。そのため、子ども達の間では新庄学区などに通うことに関して、あまり違和感はないのかもしれません。また、保護者の方も賛成していただいているようには感じますが、昔からの方々の、学校がなくなってしまうことへの残念さは感じられるところです。私は、斉藤委員のお父様からバトンを受けて教育委員になりましたが、斉藤前教育委員は八向後援会長を長年務めておられます。そういう地域の重鎮たる人が、地元のことを応援している立場でいらっしゃるなかで言いにくいものでありますが、この時代の成り行きだと思っていただいて、子ども達を受け入れますと言わざるを得ないのかなと感じているところです。ただ、それぞれの子ども達は馴染むかもしれませんが、ことお祭りに至っては新庄学区にきたから一緒に花もらいなどに行こうということになるのか、地元の囃子若連を続けていくこととなるのか、色々な思いが子ども達の中で出てくるのではないかなと考えられます。この話がうまくまとまっていいただければ、親たちが思っているように早急に事を進めていただくべきなのかなと考えます。

(市長) 次に、斉藤委員お願いします。

(齊藤委員) 地元ですので、私も個人的な感情もありますが、ここで1番尊重されるべきなのは子ども達をどういう環境で育てていくのがベストなのかということで、保護者の意見が一番だろうと思います。地元の方というと色々な考えを持たれている方も実際にいると思いますし、また、その中で、学校と地域との繋がりとという部分を見てみれば、歴史文化をずっと子ども達に教えてきたという流れ、八向楯と一緒に登ってみたり、畑なすを栽培してみたりというような文化が、しっかり地元のおじいちゃんおばあちゃんと子ども達の間に根づいている部分もありますので、そういったところを考えると、やはり、もし新庄学区等に子ども達が行った場合に、そこで携わってきた地元の方の気持ちを考えると寂しさは残るのだろうなと思います。先ほど栗田委員が提案してくれたような形で関われるものが何か1つでも残ればいいのかと思います。また、保護者の目線で言えば、多人数で子ども達が運動会なり文化祭なりに参加し、その中で活躍できる子ども達が成長していく姿を見るのも、これから楽しみになるのだろうと思います。そういったところを、地元の方々もやむを得ずという部分があるかと思いますが、保護者の意見と地域の方の意見を上手く調整していただきながら良い方向に進めていただければ良いのかなと思います。また、これまでも教育委員会の方で非常に丁寧に八向学区の方へ説明していただいていたいて、本当にありがたいなと思っており、良い方向に持っていければと思います。

(市長) 次に、奥山委員お願いします。

(奥山委員) 私は小さな学校で育ったのですが、ある程度人数がいるところで学習できるというのも大事な事かなと思います。3校を学校訪問させていただいた際、地域の方が学校に協力的な地区だなという印象を持ちました。子ども達が地区の中を歩く姿がなくなるというのは、地区の方としては寂しいのではないかと思います。それだけ地域の力があるので、学校がなくなったとしても子ども達との関わりのようなものを地域の中で作ってイけるのではないかと思います。あとは、会議の進め方について、齊藤委員もお話ししていたように、地区の方たちの意見を聴き取って、それを周知してまた会議をとという丁寧なやり方だったために、皆さんにも理解していただけたのかなという思いを持ちました。

(市長) 津田教育長、お願いします。

(教育長) 学校教育を進めていく立場から申し上げますと、新庄市の教育として、小学校でも高学年には教科担任制を導入していきたいという気持ちを持っています。そのように考えたときに、複式学級となっている小学校はそういった教科がなかなかできないという弱みがあります。そして、中学校に関しても、美術や技術等の専門の先生を配置することができないという問題があります。9教科あるうち、専門の先生を全部置くことができる学校規模が今もうすでに八向中学校はなくなってしまっています。そのような点も、学校としてのウィークポイントになっているかと思います。専門の先生に、専門の教育を受けられる規模の学校に行くのが、子どもの教育を考えたときには一刻も早くと思います。ただ、先程来あるように、地域の思い、或いは地域で担ってきた学校の役割というところを考えたときに、もし統合となった場合も、それぞれの学校文化が消えない形にしたいと、ここだけは念頭に置いて統合を進めたいと思っており、9月3日に実施した八向地区懇談会

でもそのように申し上げてきました。それは、学校文化というのは、地域における学校の役割という意味と、子ども達はその学校で培ってきた、学校独自の子ども達の文化もあるので、これが大きな学校に行ってもなくなならないような工夫をしていかなければならないだろうと思っています。いずれにしても、子ども達には、大きい学校で、ある意味せめぎ合いというようなものもある中で、折り合いを見つけて育っていくというような学校生活を送らせてあげたいと思っているところです。

(市長) ただいま皆様からご意見をお聞きしまして、私も大変勉強になりましたけれども何と言っても学校が学びだけでなく地域との繋がりとなり歴史を重ねていて、発信の場所でもあるというようなことは、統合に関して問題となるところだなと感じているところでございます。皆様から、そのような前提のなかで子ども達の将来を考えた場合にどうかというようなことで、色々なご意見をいただいたと感じたところでございます。いずれにしても、丁寧な説明をしたうえでご理解をいただきながら統合を進めて参らなければならないと思っていますところでございますが、スピード感を持ってやらないと、1年遅れるとその分子子ども達の環境にも影響があるというようなこともございますので、これからも皆様からご意見をいただきながら進めて参りたいと思います。私も皆様と一緒にございまして、地域コミュニティを維持しなければならないという行政の立場もあり、それがなかなか実現しにくくなっているというようなことも現実でございまして、それをどうやって維持していくかという方法も探っていかなければならないと思っています。今回は八向地区の件ですが、いずれ新庄市全体の学校のあり方も議論しなければならない時期が間もなくやってくるのだと思います。そちらについても今後またご意見をいただきながら、しっかりと丁寧に進めて参りたいと思います。

4. その他

なし

5. 閉会

午後4時12分閉会する。